

今話題の世界の熱帯医学、渡航医学、感染症に関する  
ニュース&トピックスをピックアップして配信いたします。

## 抗寄生虫薬による消化管蠕虫の根絶の実現性は？

---

World Health Assembly(WHA)の呼びかけで小児を対象として、2001年から消化管蠕虫(特に Soil-transmitted helminthes と Schistosomiasis) に対して抗寄生虫薬、Albendazole, Mebendazole を1回使用し、駆虫する取り組みを続けている。WHOの報告によると世界中の小児のうち59%が駆虫薬の対象となる。Albendazole と Mebendazole は *Ascaris*(回虫)に対しては効果的だが、Hookworm (鉤虫), *Trichuris* (鞭虫) に対しては効果が弱い。代替薬として Tribendimidine や Ivermectin を含んだ併用療法での試みもあり一定の効果を見せているが、劇的な効果はなく新薬の登場も期待される。

Lancet Infect Dis. 2017 Aug 29. pii: S1473-3099(17)30484-X

Lancet Infect Dis 2017;17: 1162-71

## 消化管蠕虫は衛生状態、食事、水、トイレ、靴、肥料も問題がメインで感染が持続します。いわば途上国の生活習慣病です。内服薬は一定の効果を示しますが、生活習慣、栄養状態の改善がなければ根絶をすることはできません。地域へのアプローチは丁寧に時間がかかるもので、1回の薬で劇的な効果を期待するのは虫が良いように感じます。

## アフガニスタンで経口ポリオワクチンが広まらない背景

---

ポリオの根絶キャンペーンは世界中、多くの地域で効果をあげており、根絶まで3国を残すのみとなった。アフガニスタンにおいても経口のポリオワクチン(OPV)の普及に努めているが根絶に至っていない。OPVは担当者が家に届け、両親や子供の保護者が子供に内服させる仕組みになっている。子供の保護者1980人を対象とした調査では、ポリオについての知識の少なさ、またポリオワクチンについての悪いうわさがポリオ接種の障害となっていることが分かった。ポリオワクチンに関するうわさでは、ポリオワクチンによりポリオに感染する、ハラルでない、不妊になる。HIVになることがある、というものがあつた。

Lancet Infect Dis 2017;17: 1172-79

## ワクチンのネガティブな印象は日本でも接種率の低さにつながっており、共通した問題と考えます。イスラム圏ではハラルの問題もワクチンと関係しており、ワクチンのキャンペーンでは疾患の教育、正しい知識の普及を共に行う必要性を感じました。供給するワクチンの質、保管の管理、偽薬の根絶も大切だと思います。



---

【発行元】 特定非営利活動法人グローバルメディカルサポート （月 2 回）

□MAIL. [info@npo-gms.org](mailto:info@npo-gms.org)

□URL. <http://npo-gms.org/index.html>

□FB. <https://www.facebook.com/NPOGMS/>

